

昔遊び・大道芸・民謡に沸いた

第2次チーム 仮設・幼稚園・児童館へ、

NPO法人・グループ わ の東北被災地支援チーム第2陣は、仮設住宅・小学校・幼稚園・児童センターで計11回の慰問活動をしてきました。現地から「心のケアをしてほしい」と要望があったので、昔遊び・紙芝居・大道芸・動物風船・マジック・民謡・童謡を中心としたプログラムを組み、三味線・ハーモニカなどの楽器も持参しました。

仮設住宅での公演は今回が初めて。女川町石巻バイパス東、同西など4か所を回りましたが、自治会もまだなく、道路に沿って1列に数百メートルも住宅が並んでいるので“お客集め”が大変でした。事前にポスターやチラシを配布していたのに開演時間になっても集会所はガラガラ状態。メンバーが三味線・ハーモニカ・拍子木を鳴らして各戸を回り、チンドン屋さながらの呼び込みをしてやっと30人ほどが来てくれました。



でも、始まってみると皆さん打ち解けてノリノリ状態。「初めて仮設から出て近所の人と話をした。半年ぶりで民謡を歌った」と涙ながらのお年寄りもいて、私たちもホロリとしました。マジックや南京玉すだれに沸き、紙芝居には大きな拍手が。民謡好きの土地柄もあって、斉太郎節や遠島甚句をみんなで歌い、最後は全員で炭坑節を踊ってフィナーレです。「ふるさと」の歌詞も用意したのですが、「つらくて歌えません」と。こちらも配慮が足りなかったかな、と少し反省しました。

児童センターなど子供たち相手の公演は慣れているので、スタッフもリラックス。気楽に子供たちと遊ぶことができました。ある幼稚園では、140人も集まってくれ、てんてこ舞いの大忙しでしたが、「面白かった。また来てね」と口々に声をかけられ、疲れも吹っ飛びました。

神戸の子供たちからのメッセージは、どこでも歓迎されました。A3判サイズで110枚を持参。仮設や幼稚園の壁に張ってもらいましたが、子供たちも

熱心に見てくれており、保母さんからも感謝されました。その様子を写真に撮り、メッセージを書いた児童館などに届けましたが、神戸の子供たちにとっていい経験になったと思います。

連日の公演だったので、毎晩ミーティングで翌日

のプログラムと材料の数を確認。紙トンボなどの不足分は作って補充しました。宿舎は和室の4人部屋に5人。食事は朝と夕食はホテルの定食。お昼はコンビニの弁当で済ませました。

名取市の惨状には驚きました。石巻・女川などはガレキの山でしたが、ここは見渡す限り何もなく、きれいに整地された造成地のようでした。平地だったので、「大津波がすべてを持って行ってしまった」ということです。

女川・石巻・東松島・名取を巡回

日程 今回は15日朝、新神戸から新幹線で仙台へ。レンタカー2台を借りて訪問先を巡回。19日の夜行バスで帰るハードな日程でした。

16日はスタッフ14人で女川町石巻バイパス東住宅（参加30人）、同西住宅（25人）で公演。17日は2班に分かれ、女川町清水の仮設住宅（40人）と東松島市のはなふさ幼稚園（140人）=写真。午後は合流して石巻の新田仮設住宅（40人）。

18日も2班に分かれ、石巻市の東浜小学校（23人）と荻の浜保育所（9人）。名取市の増田保育所（76人）。午後は合流して、名取が丘児童センター（90人）で公演。19日は名取が丘保育所（51人）とゆりが丘児童センター（61人）で最後の公演をしました。